高学年分科会提案

１　単元設定の理由

〈研究主題〉

「主体的・対話的に学ぶ児童の育成
～身近な地域素材を活用した教材開発を通して～」

昨年度の学習では、地域の身近な教材である「キラキラ橘商店街」を学習の中心に据え、児童が地域の魅力や課題、人々の願いを探究しながら、地域の未来について考え、商店街の事務局や地域の人へ向け提案を行った。今年度は、その学びを基盤として、自分たちが考えた提案を実際に形にし、地域に発信する活動へと発展させる。本実践では企画を考えて終わるのではなく、実践・発信し、その成果や課題を振り返ることを重視している。地域に働き掛け、その反応を受け止めながら活動することは、学習の有用感や達成感につながるとともに、自分も地域社会を支える一員であるという意識を高めることにつながる。

研究主題における主体的に学ぶ姿とは、学習を振り返って自らの課題や成果を見つめるとともに、次の活動への見通しをもって学習を進める姿であると捉える。本実践では、町会や地域の店、商店街の方々などの地域の材（人・もの・こと）を活用し、多様な立場の考えや願いに触れることで、地域とのつながりを実感しながら学習に取り組めるようにする。また、地域の大学生をアドバイザーとして招き、児童だけでは気付かない視点を共有することで、新たな課題を見いだしたり、よりよいものを追究しようとしたりする意欲を高める。さらに、学習計画や学習の足跡を掲示し、自分たちの活動の状況や目標を常に意識できるようにする。毎時間の振り返りを基に次時のめあてや活動内容を考えることで、児童が見通しをもって課題解決に取り組めるようにする。

対話的に学ぶ姿とは、友達や地域の方々、大学生アドバイザーなど多様な他者との関わりを通して、自分の考えを広げたり深めたりする姿であると捉える。本実践では、商店街の方々へのインタビューや企画に対する助言、児童同士の意見交換などの活動を位置付ける。また、個人で考える場面、ペアで考える場面、グループで考える場面、全体で考える場面を児童の思考状況に応じて設定し、多様な考えに触れながら自分の考えを広げたり深めたりできるようにする。さらに、自分の考えを整理したり他者に分かりやすく伝えたりするために思考ツールを活用する。目的に応じて既習の思考ツールを選択できるようにすることで、考えの比較や関連付けを行いながら、多面的・多角的に課題を捉え、よりよい課題解決の方法を探ることができるようにする。

以上のことから、「キラキラ橘商店街」という身近な地域素材を活用し、振り返りを生かして見通しをもちながら学習を進めることや、多様な人々との対話を通して考えを広げたり深めたりすることによって、主体的・対話的に学ぶ児童を育成できると考えた。

２　児童の実態について

以下の通り、アンケート調査を行った。

（１）調査方法：クラウド型教育プラットフォームによるアンケート調査

（２）調査対象：６年１組　24 名

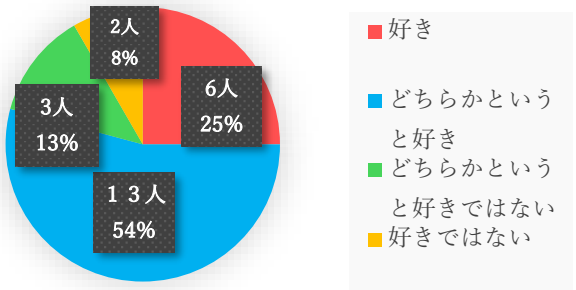
（３）実施時期：令和８年７月 13 日（月）

（４）調査結果及び考察（単位：人）

【学習に関するアンケート調査】

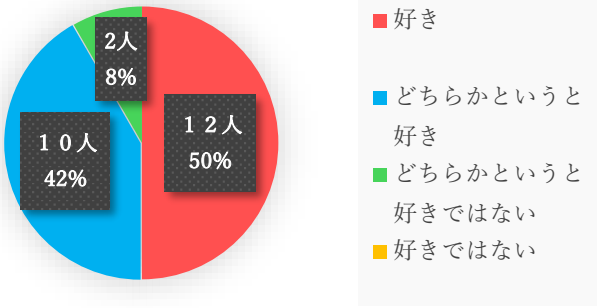
Ｑ１

自分の知っていることや考えを、人に伝えることは好きですか。



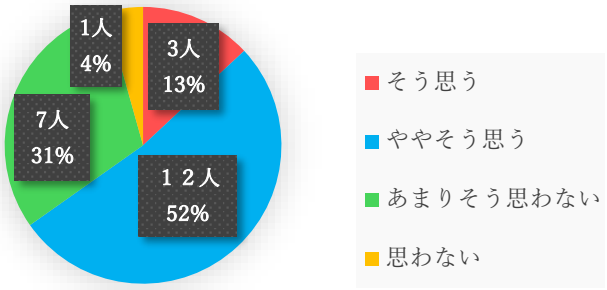
Ｑ２

人の話や考えを聞くことは好きですか。



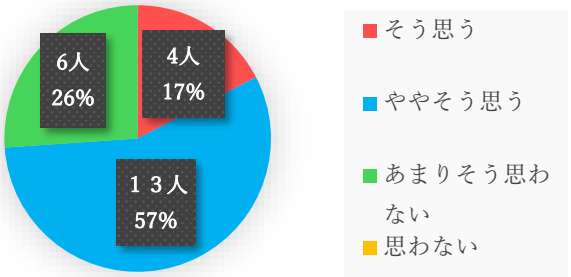
Ｑ３

話し合うときに、自分の意見と相手の意見の似ているところやちがうところを考えて比べていますか。



Ｑ４

相手と意見がちがった時は、相手に質問したりして、考えをなっとくするように確かめていますか。



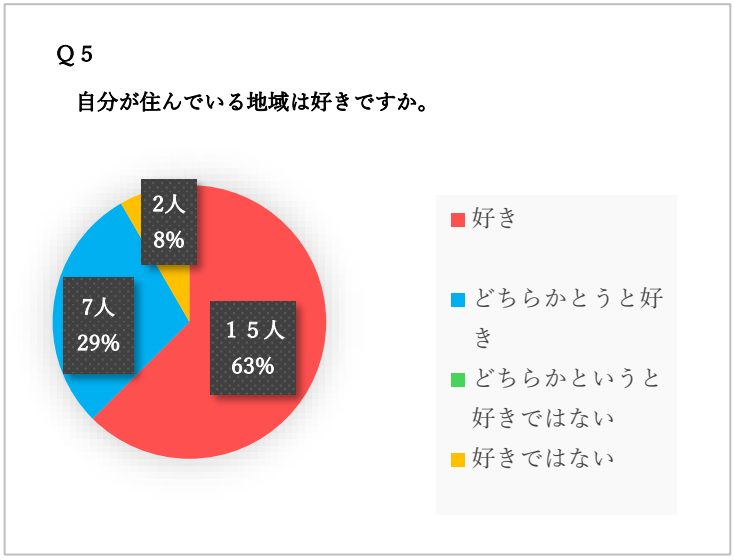
「Ｑ１自分の知っていることや考えを、人に伝えることは好きですか。」の問いには、約８割の児童が肯定的な回答をした。「好き」、「どちらかというと好き」と回答した理由の記述からは、人と話すことが面白い、対話を通して仲良くなれるという意見が見られた。一方で、友達の話を聞いたり自分の考えを伝えたりすることを好意的に捉えている児童が多くいるが、学習の中で、他者との対話を通して、自分の考えを広げたり深めたりする話合い活動には至っていない児童もいる。このことから各教科等領域で学習形態を工夫して、自分の考えを広げたり深めたりすることができるようにしていく必要がある。

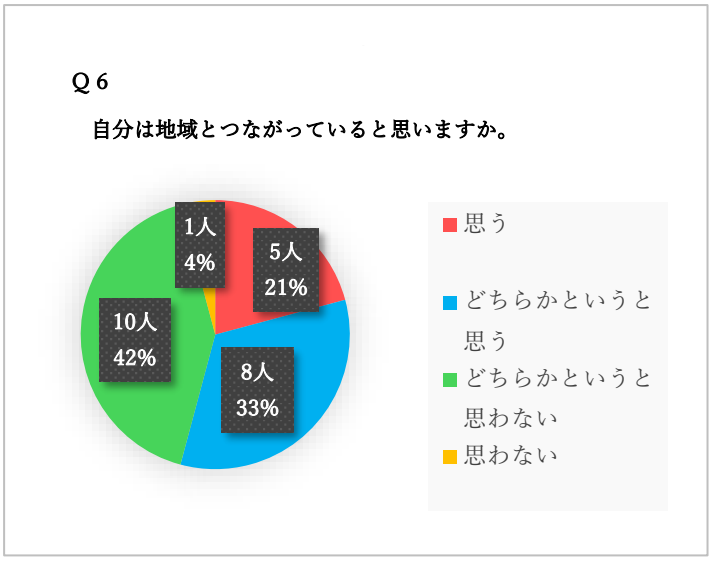
「Ｑ３話し合うときに、自分の意見と相手の意見の似ているところやちがうところを考えて比べていますか。」「Ｑ４相手と意見がちがった時は、相手に質問したりして、考えを納得するように確かめてい

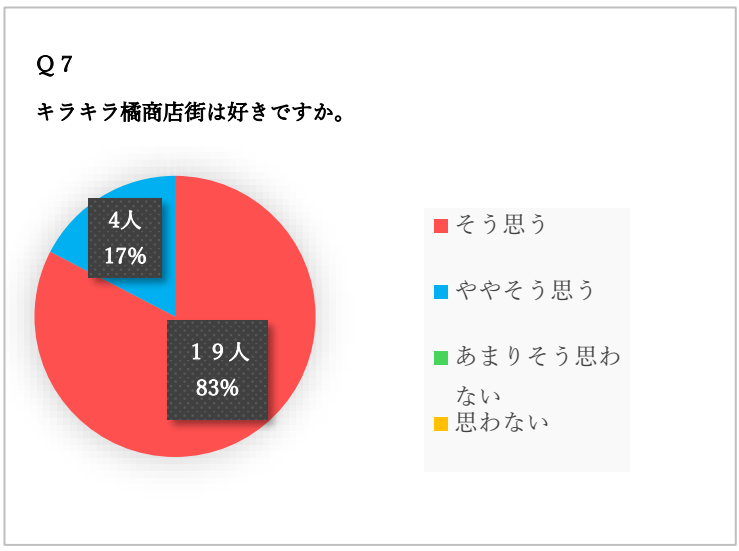
ますか。」の問いでは、自分と相手の意見の共通点や相違点を考えたり、納得するまで話し合ったりすることに約３割の児童が否定的な回答をしており、自分の考えを整理して伝えたり、他者の意見から自分の視野を広げ、より良い方向に調整したりすることに課題が見られる。

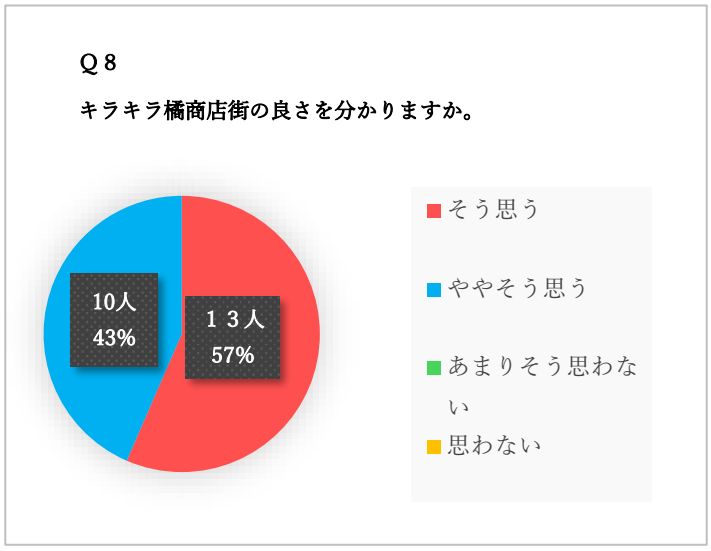
このことから、様々な思考ツールを提示し、児童が必要に応じて選択しながら活用できる力を育むことが必要である。

【地域に関するアンケート調査】









「Ｑ５自分が住んでいる地域は好きですか」という質問に対して９割の児童が肯定的な回答をした一方で、「Ｑ６自分は地域とつながっていると思いますか。」の問いには、消極的な意見が見られた。また、「Ｑ７キラキラ橘商店街は好きですか。」、「Ｑ８キラキラ橘商店街の良さを分かりますか。」の問いには、全員が肯定的な回答をした。このことから、児童にとってキラキラ橘商店街は身近な存在だが、商店街を取り巻く地域社会や、それらが人々とどのようにつながりをもっているのか実感できていない児童がいると考えられる。そのため、地域人材を講師として招くことで、意図的に地域とのつながりをもたせ、地域とのつながりを実感できるようにしていく。

３　研究主題に迫るための手だて

（１）主体的に課題解決に向かうための学習計画や、足跡の視覚化

町会や地域の店、商店街の人々との関わりを通して、多面的・多角的な視点を育み、地域とのつながりを実感できるように地域の材（人、もの、こと）を生かす。また、地域の大学生にアドバイザーとして、授業に参加してもらう。児童だけでは気付かない視点を共有することをきっかけに、課題を更新したり、より良いものを求めようとする意欲を喚起したりする。

教室内に掲示された学習計画で一人一人が見通しをもちやすくする。また、相手意識・目的意識・ゴールのイメージや、地域の方の願いや思い、学習に関わっていただいた方々からのアドバイスなどを足跡として視覚化し、視点の一つとして立ち返ることができるようにする。

各グループには、専用のパネルを用意する。学習を進める中で考えたことや話し合ったこと、作成物などの足跡を残し、常に振り返ったり確認したりできるようにする。

（２）対話的に課題解決に向かうための相手意識の明確化

個人で考える場面、ペアで考える場面、近くの友達とグループで考える場面、全体で考える場面を、児童の思考状況に合わせて使い分け、自分の考えを広げたりより良いものに深めたりしていくことができるようにする。さらに、大学生アドバイザーや商店街などの地域素材を活用することで、新たな発見や考えを生み出すことにつなげていく。また、段階的に地域素材を活用し、自分たちが考えたことへのフィードバックを受けることで、自分自身や友達と対話を重ねながらより課題解決に向かうことができると考えた。

自分の考えを友達に伝える際、分かりやすく整理し、思考ツールを活用することで伝えやすくする。今まで使ったものから選ぶことができるように、各教科等領域の中で意図的に使用していく。使用してよかったという経験の中から、児童自身で選択できるようにする。

４　実践授業

第６学年　総合的な学習の時間　学習指導案

日　時　　令和８年 10 月 30 日（金）
対　象　　第 6 学 年 1 組　 24 名

単元名　キラキラ橘探偵団　FINAL

単元の目標

キラキラ橘商店街について探る活動を通して、キラキラ橘商店街には様々な魅力や課題があることや、キラキラ橘商店街に関わる人々の願いがあることを理解し、キラキラ橘商店街のさらなる活性化のために、自分たちにできることを考え、実践しようとする。また、自分たちが地域に暮らしている一員であることを意識しながら生活できるようにする。

単元の評価規準

評価の観点	評価規準
ア 知識・技能	① キラキラ橘商店街には、歴史・食など、様々な魅力や課題があることを理解している。 ② キラキラ橘商店街の人々や関わっている方々との交流を通して、歴史の重みを知るとともに、様々な方の努力や支え、願いがあることに気付いている。 ③ インタビューやアンケート、フィールドワークなどによる調査を、目的や場面に応じた方法で行っている。 ④ 多様な人々と関わりながら解決していく探究学習の良さに気付いている。
イ 思考・判断・表現	① キラキラ橘商店街の魅力を発信するために、学習課題を設定し、解決の方法や手順を考え、計画を立てている。（課題設定・計画） ② キラキラ橘商店街の魅力を発信するために、課題に適した方法を選びながら、関わっている地域の情報を収集している。（情報収集） ③ 収集した情報を比較したり、関連付けたりして、理由や根拠を明らかにし具体的な活動を決定している。（比較検討・整理分析） ④ 課題解決に向けた自分の考えや活動を通して、学んだ自らの想いや自分の成長や変容を、分かりやすく表現している。（表現・まとめ）
ウ 主体的に学習に 取り組む態度	① 自分の良さや頑張りを認めたり、他者の考えを受け入れたりしながら、自らの意思で課題を解決しようとしている。 ② 友達の考えや学習に関わる人々の意見を生かしながら、自分の考えを伝えようとしている。 ③ 課題解決の過程を振り返り、活動の進み具合を確認・修正したり、キラキラ橘商店街の人々との関わりの中で自分にできることを考えたりしようとしている。

単元の指導計画と評価計画（45 時間扱い）

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準 （評価方法）
第１次 キラキラ橘商店街を活性化するために （10）	○昨年度までの学習活動を振り返る。 ・昨年度、商店街の未来を考えた提案書の発表会をした。 ・キラキラ橘商店街には様々な魅力や課題があった。	・昨年度発表した際に使用した掲示物を使い、学習内容を振り返る。 ・提案したが、実現できなかったことから今年度は何か形にしたいという想いがもてるようにする。	ア－① （発言）
	【単元全体のめあて】　キラキラ橘商店街のさらなる活性化のために、自分たちにできることを考え、実践しよう。		
	○提案したことの中で今年度実現したいことを話し合う。 ・ＳＮＳなどを使って宣伝活動をしたい。 ・ここでしか買えない商品があればお客さんが来てくれるかも。 ・雨の日や暑すぎる日は、お客さんが来ないから、涼める屋根付きのスペースがほしい。 ・オリジナルのゆるキャラをり、つくったら話題になるかも。 ○企画の内容を商店街の代表の方に提案する。 ○商店街の方々からもらったアドバイスを基に､自分たちの企画の改善点を整理する。 ○９月以降の学習計画を立てる。	・地域の人の想いを想像しながら活動を進めていくことを確認する。 ・児童が立てた学習課題を基に、実現させるための企画書を作り、商店街の方々にプレゼンテーションを行い、協力を要請する。 ・以下のプレゼンテーションの視点を示す。 ①理由 ②実施した際のメリット ③想定されるコスト ④協力してもらいたいこと ・実際にプレゼンテーションを聞いていただき、商店街としての想いや願いを伝えてもらう。 ・どのように改善していくべきか、方向性を明確にし、整理する。 ・９月以降に実施していくべきことを話し合い、見通しをもてるようにする。	イ－① ウ－① （発言・一人１台端末・ノート） ア－② （発言） イ－① （発言･ノート）
第２次 発信し隊　キラキラ橘商店街の魅力 （15）	○商店街や地域の人々の想いを知るために､インタビューをしたりアンケートをとったりする。 ・何を知るために誰に何を聞いたらよいか、話し合う。 ・実際にインタビューやアンケートを実施する。 ・結果を集計し、どのように生かすことができるのか、考える。	・相手意識･目的意識を明確にする。商店街、地域の人々、四吾の児童や先生など、自分たちの課題によって、必要な手段や対象を選択するようにする。 ・インタビューの仕方やマナーについて指導する。	ア－② ア－③ イ－② ウ－① （発言・ノート・観察）

	○アンケートやインタビュー結果をもとに、自分たちが考えてきた企画案を見直す。 ○企画案について、大学生アドバイザーからの意見を基に、改善案を作成する。（本時） ○商店街の方々に企画書を見ていただき、意見をもらう。もらった意見を基に企画書を修正する。 ○上記内容を２サイクル実施し、企画内容を確定する。お披露目イベントについて話し合う。	・整理分析する際に、思考ツールを提示し、効果的なものを選択できるよう助言する。 ・企画案の修正をする際に、企画しているものの相手意識・目的意識や、商店街の方々の想いや願いに立ち返られるようにする。 ・可能な限り、２サイクル程度練り直しを実施し、確定していく。 ・確定して終わりではなく、どう披露して、みんなに親しんでもらうのか、話合いの視点を明確にする。	イ－③ （発言・観察） イ－④ （発言・ノート） ウ－① ウ－② （発言・ノート） ア－② ウー① ウ－② （発言・ノート） ウ－① （発言） ア－④ （発言・ノート）
第３次 お披露目イベント大作戦 （15）	○確定した内容を基に、企画を実施する。また、作成したもののお披露目イベントを企画する。 ①魅力宣伝…動画作成 ②商品開発…工場等に依頼 ③ゆるキャラ…データを事務局へ →②・③のグループはイベント準備へ課題を更新する。（②はイベント企画へ、③はポスター・チラシの準備へ。） ○大学生アドバイザーや商店街の事務局の方々と相談しながら準備を進める。 ○お披露目イベントを実施する。	・キャラクターやロゴ紹介、キラキラ橘商店街の限定商品、紹介動画をお披露目するイベントを事務局の方と連携して開催するための準備をする。その際も可能な限り、大学生アドバイザーに協力を依頼する。 ・各グループの進行状況を確認し、必要に応じて助言する。	ア－② ウー① ウ－② ウ－③ （発言・観察・ノート） イ－③ イ－④ （発言・ノート） ア－④ （発言・ノート）
第４次 未来へ （５）	○学習してきたことを振り返り、これから地域とどのように関わっていくことができるか、考える。 ・自分たちと地域のつながりについて、考えてきたことをまとめる。 ・今後の自分や人生について未来年表を作成し、発表する。	・自分も地域の一員であるという想いをもつと同時に、今後も関わっていきたいという意欲をもてるようにする。	イ－④ ウ－③ （発言・ノート） ア－④ （発言・ノート）

本時の学習（全 45 時間の第 20 時）

（1） 目標

大学生アドバイザーからもらった意見を基に、自分たちの企画と比較しながら練り直す。

（思考・判断・表現）

（2） 本時の展開

時間	学習活動	◇指導上の留意点・配慮事項 ●評価（評価方法）
導入 5 分	1　前時までの学習を振り返る。 ・商店街の人にインタビューをして、キラキラ橘商店街の魅力を改めて知った。 ・大学生から企画についてアドバイスをもらった。 2　本時のめあてと流れを確認する。 **大学生アドバイザーからもらった意見を基に、企画を練り直そう。**	◇学習の足跡を活用して、学習を振り返る。 ◇相手意識・目的意識を明確にするため、インタビューやアンケートから分かった、商店街や地域の人々の想いを大切にしていくことを再確認する。 ◇大学生アドバイザーからアドバイスをもらった前時の活動を振り返る。振り返りの内容を数名紹介し、本時のめあてにつなげ
展開 15 分	3　グループごとにもらったアドバイスを生かすために、どうするべきか、話し合う。 グループ ①SNS 動画作成グループ ②限定商品開発グループ ③キャラロゴ作成グループ	◇もらった現状の課題に対して、どのようにすれば解決できるのか、視点を明確にして話し合うとよいことを確かめる。 ◇活動が進まないグループに対しては、話し合う視点を絞るように助言する。 ◇もらった課題ごとに改善案をまとめられるようにワークシートを工夫する。
10 分	4　グループごとに考えた改善案について、ワークシートを見ながら、意見交換会を実施する。 （付箋の色） ・よかったところ…青色 ・改善点…桃色 ・質問・疑問点…黄色 ・わたしだったら提案…緑色	◇他のグループの改善案について、自分が考えたことを付箋に書き、貼るようにする。思いつかない時にはよかったところを書くように助言する。 ◇改善案についてよく分からないところはそのグループの児童に質問してもよいことを伝える。
10 分	5　意見交換会でもらった付箋を基に、さらによりよい企画になるように練り直す。	◇変更した考えについては、足跡が残るように消しゴムでは消さず、二重線で書き直すようにする。 ●課題解決に向けた自分の考えや活動を通して、学んだ自らの想いや自分の成長や変容を、分かりやすく表現している。 【思・判・表】（ワークシート・発言・観察）

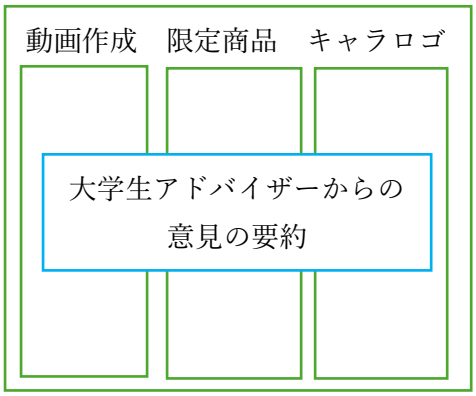
まとめ ５分	６　本時の振り返りを行い、次時への見通しをもつ。 （振り返りの視点） ①本時に考えたこと ②次時に考えていきたいこと	◇時間があれば、２～３人グループで書いたことを交流する（数名全体発表を実施）。

板書計画

10/30（金）

キラキラ橘探偵団　FINAL

めあて　大学生アドバイザーからの意見を基に、企画書を練り直そう。



授業の流れ

企画書練り直し①
↓
アドバイスタイム
↓
企画書練り直し②
↓
ふり返りタイム

アドバイスカード

青 よかった ところ	桃 改善点
黄 質問 疑問	みどり 提案